

次世代 CSR におけるサステナビリティ教育指針

指 針

持続可能な社会の実現をめざす私たちは、以下の7つの指針に基づき、それぞれの立場と現場から、持続可能な社会づくりのために、サステナビリティに敏感な人材を育成することに取り組みます。

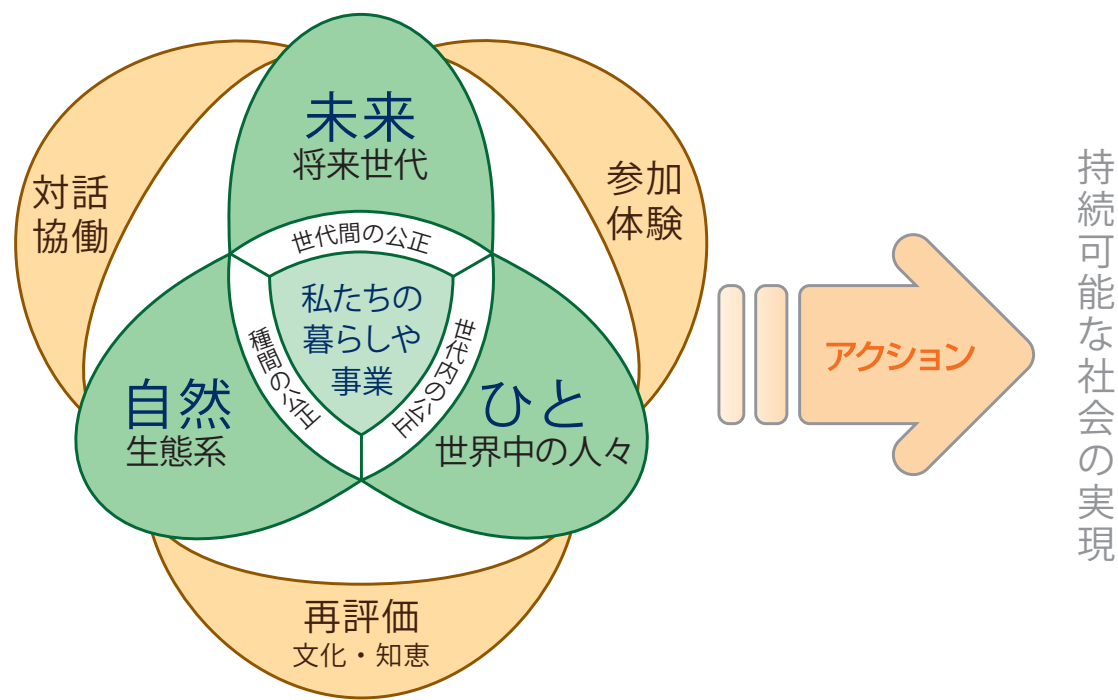
そのために、次の「3つの公正」の視点を持ち、「3つのアプローチ」をはかることで、「危機をチャンス」にしてゆきます。

アクション

●**危機を「チャンス」に、積極的に取り組む**

持続可能な社会づくりの課題に対し、敏感な対応ができないと、ビジネスにとって「リスク」になりますが、逆に積極的な取り組みができると「チャンス」(機会)として活かすことができます。私たちの暮らしや企業活動が世界の課題と関係していることをしっかりと見透し、人も社会も世界も持続できるビジネスを創出することができる企業人が生まれる環境づくりに取り組みます。

3つの公正×3つのアプローチ = 危機をチャンスに!



3つの公正

●**世代間の公正〈未来・将来世代〉**

将来の世代が、私たちと同等の環境を享受する権利があることを深く認識し、私たちの事業や暮らしが未来に与える影響を常に考え、行動に活かします。

●**世代内の公正〈ひと・世界中の人々〉**

私たちの事業や暮らしが、途上国をはじめ国内外の社会・経済的弱者とも関係していることを認識し、できるだけ負担を強くないよう考え、実践に努めます。

●**種間の公正〈自然・生態系〉**

人間と自然、ヒトとヒト以外の生物との関係を根本的に問い直し、人や社会の基盤である生態系からの発想を心がけます。

3つのアプローチ

●**対話と協働**

簡単な答えのない持続可能な社会の実現にむけて、多様な価値観を尊重し、これまでの常識にとらわれない新たな価値を創造するために、幅広い分野の関係者との「対話」を積み重ね、違いを活かして「協働」していきます。

●**参加体験型の学び**

自然や社会と私たちをつなげる「感性」や「直観」を育み、自分ごととして当事者意識や主体性を培うために、知識伝達型の教育だけでなく、ESDの実践の中で重視されてきた「参加体験型の学び」の手法を活用します。

●**文化と知恵の再評価**

各国各地域で忘れられかけている文化や伝統的な自然観などを見直し、そこから学べる知恵を再評価し、未来に継承発展させます。